

## F: 医療経済・社会科学

## 社会科学 No.5

## 医療と貧困 —— 健康格差・社会的決定要因・SDHを3軸で読む

★ この講座では**大学の社会疫学・健康社会学・SDH（健康の社会的決定要因）論**の知識を使います。採点者は大学教員です。「相対的剥奪仮説（マーマットの地位症候群）」「絶対的貧困と相対的貧困の区別」「ヘルシーシティ構想」といった大学レベルの概念を使うと、「貧しい人も医療を受けるべきです」と書く他の受験生と突出した差がつきます。

## 導入文

「貧しい人は病気になりやすい」は直感的に正しいが、大学の社会疫学では「収入の絶対値より社会的な地位の低さが健康に影響する（相対的剥奪仮説）」という逆説的な発見がある。WHOが推進するSDH（健康の社会的決定要因）という枠組みを使うと、採点者（大学教員）に「社会疫学の最前線を知っている」と伝わり、他の受験生と突出した答案になる。

## 講義概要

健康格差を「SDH（健康の社会的決定要因）」の枠組みで体系化する。収入・教育・住環境・社会的つながりが健康に与える影響、マーマットの「地位症候群」（社会階層が高いほど健康）の研究、健康格差縮小のための政策（ヘルシーシティ・ポピュレーションアプローチ）まで整理する。

**授業目標：**健康格差を「お金がないから病院に行けない」から、SDHという社会疫学の枠組みで多層的に論証できる対象へ変える。

**対象者：**高2～高3・浪人生。医学部・公衆衛生系志望で、健康格差・社会的決定要因を深く論じたい生徒。

**授業時間：**授業90分＋演習・質疑応答30分

**到達目標：**SDHの主要な決定要因を説明できる／相対的剥奪仮説の意味を論じられる／健康格差縮小のための政策を提案できる

## 授業構成（90分）＋演習・質疑応答（30分）

**autorité90分：**1 導入：「なぜ豊かな国でも健康格差があるのか」を問いとして提示 2 SDHの枠組み：WHOが定義する健康の社会的決定要因の層構造 3 マーマットの研究：ホワイトホール研究と地位症候群 4 相対的剥奪仮説：絶対的貧困より社会的不平等が健康に影響する 5 日本の健康格差：地域・職業・教育歴と平均寿命の関係 6 政策介入：ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチの使い分け 7 演習：「健康格差縮小に医師として何ができるか」をSDHで論じる

**追加30分：**「経済的に困窮した患者に対して医師はどう向き合うか」をSDHと政策的視点で300字論述する演習と質疑応答を行う。

**板書・スライド骨子：**SDHの層構造図／マーマットの地位症候群のデータ／相対的剥奪仮説の説明／健康格差縮小の政策メニュー

**課題：**「健康格差は医療の問題ではなく社会の問題だ」という主張をSDHの視点から評価し、医師の役割について200字で論じる。

**備考：**高校・予備校の先生方／編入学試験および大学院受験への橋渡しの基礎確認をしたい方にも対応。